

学 習支援の充実を！（継続質疑）

教育・福祉

質疑のポイント

- ☑ 貧困の連鎖による教育格差を防ぐため、所得水準が低い世帯の生徒に学習機会を得る制度の構築をすべきであると、過去に質疑。
- ☑ 令和3年度より、多様な学習支援の実施というテーマで学習支援事業を行なうが、その狙いと取り組みはどういったものか。

「リモート型学習」、「リアル型学習」の2つの支援のスキームを行なう。休校期間の長期化と家庭の経済的事情で学習の遅れが拡大する懸念から、受験を控える中学3年生を対象にスタートしたリモートでの学習支援を、中学2年生、不登校の中学生、長期入院の小・中学生と段階的に実施を拡大した。現在 200 名超の中学生が大学生講師とマンツーマンで週 1 回、50 分のオンラインでの学習支援を受けている。



リアル型の新たな学習支援は、経済的に厳しい中学生に対し、大学生講師が高校受験に向かって伴走支援をするとともに、地元企業も参画して、将来の夢や選択肢を提示するという取組。まずは市内3か所で運営事業者を募集し、事業開始後の運営支援を行っていく。



▶ 西区の「無料学習支援教室」を訪問

令和2年予算議会にて、私、いさやま大介の質疑から1年後に、政策化できたことを高く評価するとともに、今後、全市への拡充を期待します。また、学習面だけでなく、文化・スポーツ的な要素を高めるために「習い事クーポン」の発行を要望しました。

こどもの居場所づくり、中高生の無料自習室など、注目の施策

- ① こどもの居場所づくりの全市展開
 - ・小中学生に夕食や自習の場を提供する子ども食堂への補助金支給要件を緩和。
- ② 学童保育利用者を対象とした学習支援の実施
 - ・公設の学童保育約200カ所に、児童の宿題の見守りに当たる要員を順次配置。
- ③ 中高生への無料自習室確保
 - ・文化センターの空き室など10カ所程度を、中高生用に自習スペースとして平日の放課後等に確保。



ICT等を活用した高齢者のフレイル予防を！

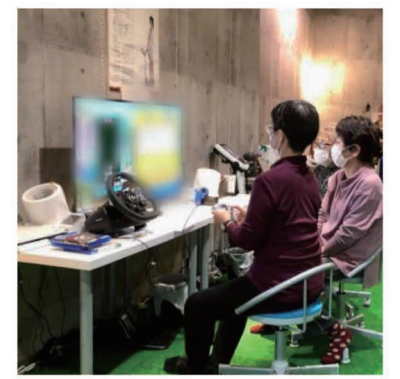
介護・ICT

質疑のポイント



- ☑ コロナ禍におき、外出を自粛している高齢者が増えている中、人と接する機会が減少することにより、フレイルの進行が危惧される。
- ☑ テレビ放送されたオリジナル介護予防体操プログラムが好評であったが、ICT等を活用したフレイル予防対策の取組の展開は。
- ☑ 公衆Wi-Fiが設置される「地域福祉センター」の活用して、子供の学習場所として提供するなど、多世代が集まる仕組みを構築すべき。

機械に不慣れな人でも簡単に利用できるオンライン会話ツール「リハブコール」や、ゲーム競技として楽しむeスポーツ等を活用した実証事業に取り組んでいる。来年度から、神戸市看護大学において、重症化リスクの高い慢性疾患患者を対象としたオンライン看護のモデル構築等の取組を開始する。機械に不慣れな高齢者も多いことから、今後のフレイル対策は、ICTの活用と従来通り対面によるつながりを合わせた「ハイブリッド型の対応」を考えている。



▶ eスポーツを楽しむ風景

「子供の居場所づくり事業」の拡充により、子供たちが放課後に身近な施設としてGIGAスクールで配布されたパソコン等を使って、家庭学習できるような環境も整えていく必要がある。高齢者をはじめとする世代を超えたスマホ教室、オンラインの体験会などの活動を支援することで、「地域福祉センター」を地域の多世代交流の拠点にしていきたい。

■ 令和3年度各会計予算について

令和3年度各会計予算及び関連議案、合計47件を要望12件を付して認定、承認しました。（要望事項の一例）

- ・新型コロナウイルス感染症対策において、スーパーコンピューター『富岳』を最大限活用し、原因の究明と予防対策に万全を期すこと。
- ・摩耶山の再整備については、六甲山と摩耶山でゾーニングを守りながら、現在定着している市民活動と観光の両立を図ること。
- ・公園不足が指摘されている摩耶小学校区においては、早急に公園用地の確保に努めるとともに 防災空地の活用も視野に、建設局と都市局の連携を図ること。

